

「分かる・楽しい」授業づくり5つの心得

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、**学んだ後の姿（単元のゴールの姿）を設定し、学習者の視点を踏まえ、単元など内容や時間のまとまりを見通して授業を構成**することが重要です。そこで、新学習指導要領を基に、「熊本の学び推進プラン」及び宇城管内の実態を踏まえて、「『分かる・楽しい』授業づくり5つの心得」をリニューアルしました。

心得1～5の全てを毎時間の授業で、必ず設定する必要があるという訳ではありません。**教科の特性や単元の構成、本時のねらい等に応じて、適切に設定し、授業改善に活用**ください。

※ □ 指導者からの視点 ○ 学習者からの視点

導入

心得1 「何を学ぶのか」が分かる、必然性のある「めあて」の提示

□ 「何を・なぜ学ぶのか」が分かる、子供たちの問いから生まれた又は学習意欲を喚起する、必然性のある「めあて」となっているか。

○ 「やってみたい」「調べたい」という学習意欲を持ち、「どのように学ぶのか」学習の見通しを持って、主体的に学びに向かおうとしているか。



展開

心得2 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のために「しっかり学ぶ」場の設定

□ 実生活での活用を意識し、課題解決に向けた基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っているか。



心得3 めあてに沿って、「じっくり考え、はっきり表現」させる場の設定

□ 何を考えさせるのかを明確にした具体的な発問になっているか。
□ 多様な考えを交流させるなど、協働的な学びの場を設定しているか。

○ 個人や協働的な学びの場等を通して、各教科等の「見方・考え方」を働かせ、考えを深めることができているか。
○ 自分の考えを、基礎的・基本的な知識及び技能を活用し、根拠や理由を明確にして表現しているか。

終末

心得4 「何を学んだのか」が分かる「まとめ」の提示

□ 「何を学んだのか」が分かるように、子供の言葉を生かしてまとめているか。
□ 「めあて」と「まとめ」の整合性はとれているか。

○ 「めあて」に沿って、自分の考えをまとめたり、表現したりしているか。



心得5 「何ができるようになったのか」が分かり、「次の学び」へ誘う「振り返り」の場の設定

□ 何を振り返るのか、振り返りの視点を明確にしているか。

○ 自分が学んだことを振り返り、成果や新たな課題、実生活との関連などについて考えを持つことができているか。

